

元建設省都市局建設専門官・渡部與四郎（わたなべよしろう）氏ヒヤリング記録

2015年2月13日（金）午後5時～6時

東京麹町都市センター1階喫茶コーナー

なお、研究会から田村千尋と田口俊夫が出席した。

高速道路地下化等で、横浜市側の田村明と対峙したといわれた建設省側の渡部氏（88歳）にお話を伺った。田口作成の研究会講演メモと年表を元に、当時のやり取りを確認した。

- あの件は、当時の担当者の依田和夫君（後に都市局技術参事官、街路課長、区画整理課長、慶應義塾大学教授、故人）に任せていた。依田君は一時期英国に留学していたが、この件を担当していた。
- 田村明君とは在学中の交流はなかったが、東京大学で同期（渡部氏は千葉の東大第二工学部土木学科、田村氏は本郷の東大第一工学部建築学科）だった。
- 飛鳥田市長の命令とはいえ、企画調整の責任者にもかかわらず、えらく高速道路地下化などという細かなものをやるものだと当初思った。もっと、都心臨海部再整備などのおおきな案件をやるべきだと感じた。
- 当時の建設省都市局と首都高速道路公団には予算がなく、苦労していた。
- 建設省の私の席の前で、企画調整の田村君と高速道路担当の池澤君がやりあっていた。同じ市なのに変な役所だと思った。仲良くやりなさいと私が言う羽目になった。
- 高速道路地下化は河川の問題がおおきく、そのため、それまでなかった大岡川分水路の計画が突然出された。分水路内に道路を入れるなど、河川サイドは田村君たちに言われたこともあるようだ。（田口注：洪水期でない時に管理用道路を一般利用する案）
- 昭和44年3月4日の尾之内建設事務次官と田村君の会談内容は知らないが、それが終わってから田村君が「勝った、勝った」と私に言いに来たのを憶えている。自分たちの考えるような内容になったということだろうか。
- 市の高速道路担当の立神君は、田村君や池澤君との調整に苦労していたようだ。
- 当時、自民党系建設大臣と社会党系飛鳥田市長の間を取り持つのに苦労したのを憶えている。業務核都市づくりで、私と依田君で苦労して予算を獲得し、みなとみらいの事業が動き出したのは感慨深い。
- 皆さんがつくるNPO法人も未来志向で頑張っていて欲しい。横浜市域のみを見るのではなく、東京湾エリア全体の中で、横浜を考えるようになって欲しい。また港湾再開発と周辺のまちづくりを連動させるような、海外での人材と技術協力を、実績のある横浜市がリーダーシップをとって進めて欲しい、期待している。

以上文責：田口